



ワクチン接種後に急逝、市長の行動は

河合 克平議員

情報収集や内部での検討等、対応を協議
市長



▲医療事故調査の流れ

問 11月5日に遺族と連絡が取れずそのままにしていた。また、11月9日以降、12月5日まで説明していない状況で遺族に寄り添う気持ちが感じられない。市長のこの間の行動、どのように危機管理し、危機を脱出しようと考えていたのか。

答 非常に重大な案件であり、重く受止めている。市の対応してきた経緯について、医療事故調査委員会の結果を真摯に受け止め行動する。この事案が発生した後、情報の収集や内部での検討等、様々なことを行い、市の対応を協議してきた。

問 市民の命が失われ、市民の命を守る、市の最高責任者の市長が陣頭指揮を執ることが必要。医療事故調査委員会は法律で決められている。人道的であり、市の最高責任者として、市民の思い、遺族の思いに寄り添うのか。

問 市民の命が失われ、市民の命を守る、市の最高責任者の市長が陣頭指揮を執ることが必要。医療事故調査委員会は法律で決められている。人道的であり、市の最高責任者として、市民の思い、遺族の思いに寄り添うのか。

問 医療事故調査委員会の前に、市長は遺族への説明に行く予定はないのか。

答 医療事故調査委員会の遺族の方への説明は、理解している担当職員で説明をする。

問 受け止めて弔問を行い、遺族に対して説明を行うという理解でいいか。

答 今後、自分として責任のある行動をしていかなければならないと考えている。

問 市長が最高責任者として現場に出て遺族と接し、遺族の悲しみを共有することで初めて、責任を持った対応になり、市民に信頼してもらえ、ことなる。弔問を行い、その後、市長が説明を行う考えは。